石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ●
https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

キャンパスの池で生態系初調査

汽水域の生物など10種捕獲

赤い囲み内が調査した池。左側が旧北上川

キャンパス内の池の生態系を見てみよう――。6月29日、理工学部食環境学科と生物科学科の学生、学生サークル「生物愛好会」の会員合わせて25人が参加し、体育館西側にある池に生息している生物を初めて調査した。学生たちは高崎みつる理工学部教授の指導を受けながら10種類の生物を捕獲。また、池に棲む微生物、水草などの植物、水や泥といった食物連鎖を理解するための実験サンプルを採取した。

調査した池は貯水や防火を目的とした深さ1㍍ほどの遊水池で、一部が旧北上川とつながっており、多数の生物が生息している。学生たちは胴長を着用して池に入り、地引き網を用いて捕獲作業に取り組んだ。

捕獲した生物について高崎教授（左）の解説を聞く学生たち

確認した生物はコイ、フナ、タナゴなどの魚、ミドリガメ、スジナガエビやカニなど。淡水と海水が混じり合う汽水域に生息するマハゼやボラも見つかり、予想外の生態系が明らかになった。川原太地さん（理工3・宮城県多賀城高）は「この発見は衝撃だ。汽水の川である旧北上川とつながっていることで独自の生態系が構築されたのではないか。なぜマハゼが生息できるのか調査していきたい」と話した。

捕獲した生物は生物科学科の学生有志で透明骨格標本にする予定。標本作りのリーダーを務める丸山大地さん（理工3・山形県鶴岡中央高）は「カニやエビなどの内骨格を持たない生物の標本は初めて。完成した標本はオープンキャンパスで高校生に披露したい」と話した。

高崎教授は「キャンパス内に、人の影響を受けずに自然水系とつながった池があるのは本学ならでは。生物多様性や自然環境の調査に適した場所で、今後も継続して調査し、研究に役立てたい」と話した。

調査の模様は東日本放送の同日夕方のニュース番組で放送された。

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

30th 1989-2019 ISHINOMAKI SENSHU University

専大・嶋根教授が特別講義

人間・杉浦ゼミ

社会教育・生涯学習について学ぶ人間学部・杉浦ちなみゼミは、専修大学の嶋根克己人間科学部教授を招き特別講義を6月18日に行った。

嶋根教授は「大学での学びと社会調査」と題し、これまでの自身の研究、ゼミで取り組んだ東日本大震災の被災地でのフィールドワークの記録を紹介した。また、現在学んでいることや社会調査の経験が、卒業後の人生でどう生きるかを説明するなど、大学で学ぶことの意義を熱弁した。

ゼミ生のほか、人間文化学科の有志らが受講。「講義時間が短く感じた」と話す学生もおり、学生にとって有意義な時間となった。

手代木諭さん（3年次・宮城県石巻商業高）は「社会で必要とされる能力を身につけるには、自分自身が意識して取り組むことが大切と感じた」と話し、渡部晃士さん（2年次・茨城県第一学院高）は「印象に残ったのは、『大学は親の経済資本を子どもの文化資本や社会関係資本に変換する場であるが、文化資本は本人の努力なしに形成が不可能である』という言葉。大学での学びに対する考え方を見直すきっかけとなった」と語った。

大学で学ぶ意義を熱弁する嶋根教授

多様性をテーマに開放講座

開放センター（李東勲センター長）が実施する「みやぎ県民大学　石巻専修大学開放講座」（6月6日～7月18日、全7回）が、本学キャンパスで開講されている。今年度は本学の創立30周年記念事業の一環として開催し、「分断から融和へ―多様性の理解―」を統一テーマに、国、地域、言語による価値観の違いなどを本学の教員、元教員7人が解説する。

同講座は大学などの専門的な教育を地域社会に還元することを目的に宮城県教育委員会が主催。公益財団法人石巻地域高等教育事業団、石鳳桜会（石巻専修大学退職教職員親睦会）が共催した。

世界と日本の価値観の違いについての講座を受講した人からは「さまざまな視点からの話でとても参考になり面白い」「多様性について改めて気付かされた。自国のことをもっと知る必要があると感じた」などの感想が寄せられた。

7月18日の最終日には、全講師と受講者による交流会を予定。

交流事業を振り返るベル教授の特別講演

交流5年 米メーコン大11人来学

ベル教授が特別講演

国際交流協定校であるランドルフ・メーコン大学（R-MC、米国バージニア州）の教職員と学生合わせて11人が来学した。一行は6月10日から15日まで石巻市に滞在し、東日本大震災に関する調査や学生との交流プログラムに参加。13日にはローレン・ベル政治学部教授が「友好の懸け橋：5年にわたるR-MC・ISU間のパートナーシップ」と題した特別講演を行った。

講演は石巻専修大学創立30周年記念事業の一環で、学生、教職員、一般の方ら約50人が聴講した。ベル教授は東日本大震災の犠牲者で、両校の交流の懸け橋となったR-MC卒業生のテイラー・アンダーソンさんの話をした後、5年目を迎えた活動を紹介。「学生、教員の交流を今後も継続したい。新たにスポーツを通じた交流を行うなど、さまざまな可能性がある」と話した。

明石安弘さん（人間1・山形県新庄北高）は「英語の教員を目指しているので、メーコン大学の学生との交流を通して海外の文化を学んでいきたい」と話した。

一行は滞在中、市内の防災センター、消防署、警察署を訪問し、震災に関するアンケートを実施するなど、調査活動に取り組んだ。14日に行われた本学学生との交流会では、着物を着るなど日本文化を体験した。

3人が優勝

いしのまき復興マラソン

2000人を超えるランナーが出場した第5回いしのまき復興マラソン（6月23日、石巻市）で女子競走部が実力を発揮。ハーフマラソンで庄司琴美さん（経営4・宮城県聖和学園高）、10㌔で千葉彩有花さん（人間2・宮城県常盤木学園高）、5㌔で齋藤凜さん（経営1・宮城県聖和学園高）の3人が優勝し、大学生がエントリー可能な種目すべてを制した。5㌔の部では上位5位までを独占した。

1時間22分45秒の自己ベストを記録した庄司さんは「優勝できてうれしい。沿道からの声援が力になった」と笑顔。

北日本学生陸上競技対校選手権に向け、庄司さんは「力のある1年次生が入部し、チームとしてレベルが上がったと感じている。勝利にこだわって走りたい」と話し、齋藤さんは「今までにない『石巻専修大学女子競走部』を見せたい」と意気込みを語った。

笑顔でラストスパートをかける庄司さん

オープンキャンパス
7/28 SUN　8/3 SAT　4 SUN　25 SUN
【主なプログラム】
学科説明　入試説明会　個別相談コーナー
AO・推薦入試対策講座　学生スタッフ企画
【アクセス】
①仙台駅～大学間　無料チャーターバス（予約制）
②石巻駅～大学間　無料シャトルバス
③自家用車　※学内に約800台の駐車場
石巻専修大学入学試験係
☎ 0225・22・7717
✉ nyushi@isenshu-u.ac.jp